

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年10月5日（水）13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 令和4年度教育功労者表彰の受賞者が決定しました
- ・ 「家読（うちどく）のすすめ」のリーフレットを配布し取組を展開します
- ・ オンラインを活用した不登校生徒の居場所づくり事業「オンラインの居場所<第2期>」を実施します

質疑事項

- ・ 令和5年度三重県公立学校教員採用選考試験第2次選考試験の結果について

発表項目

○ 令和4年度教育功労者表彰の受賞者が決定しました

本年度の教育功労者表彰の受賞者を決定したものです。三重県教育委員会では県内の教育、それから学術の発展と文化財の保護顕彰に功績顕著な方を教育功労者として表彰しております。本年度は、3名の受賞者の方を決定いたしました。

お一人目は学校教育功労の鶴山義晃（うやま よしあき）様62歳、桑名市在住で元県立いなべ総合学園高校の教諭です。お二人目が学術文化功労で福井健二（ふくい けんじ）様85歳、伊賀市在住で元伊賀市文化財保護審議会委員の方です。最後が学校保健功労で竹尾雅之（たけお まさゆき）様82歳、四日市市在住で元学校医の方です。表彰式は、10月28日に14時から県男女共同参画センターで行います。この表彰は昭和34年度から始まりまして、今年度で64回目となります。今年度の方、3名を入れて、個人640人、団体144団体を表彰させていただくことになります。

功績概要を見ていただきますと、鶴山様は、高校の理科の教員で、地学等の研究成果を県内教員に広めたり、ウェブサイトで「空と雲のフォト日記」というのを平成18年から毎日、雲の写真を更新して、その気象画像をわかりやすい解説を交えて掲載して、日本気象学会の奨励賞を受賞されたり、平成28年に三重県で開催された国際地学オリンピックでも尽力いただいています。学術文化功労の福井様は、平成元年から上野市並び伊賀市の文化財保護審議会委員として、伊賀市の文化財保護に尽力され、特にお城の関係で、伊賀文化産業協会専務理事として伊賀文化産業城、伊賀上野城ですけれども、その管理運営や「築城の名手 藤堂高虎」を平成28年に刊行されたりしております。学校保健功労の竹尾様は、昭和56年4月から平成26年まで33年にわたって、神前小学校、三重平中学校、県立菰野高校で学校医を務めていただき、健康診断、健康相談に尽力いただくとともに、四日市市医師会や三重県

医師会の理事を務めるなど地域医療の充実にも大きく貢献されております。

○ 「家読（うちどく）のすすめ」のリーフレットを配布し取組を展開します

「家読（うちどく）のすすめ」ということで、リーフレットをつけさせていただきましたけれども、子どもの読書習慣の形成に向けて、子どもが家族と一緒に読書に親しむ「家読」を啓発するために、来年度、令和5年度の小学校に入学する児童の保護者の方に配布をするものです。図書館、保育所、幼稚園、認定こども園にも配布して、「家読」啓発の取組を行います。「家読」というのは「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味しておりまして、家族みんなで読書することでコミュニケーションを深めることも目的とした読書活動です。リーフレットの概要ですけれども、家庭で絵本に加え、幼年童話それから長編物語を毎日少しずつ連続して読み聞かせることの意義とか楽しみ方を紹介しておりまして、一緒に楽しめるようなブックリストも掲載をしております。このブックリストは、子ども読書活動推進会議委員という会議があるのですが、その委員の方々のご推薦をいただいたものでございます。

○ オンラインを活用した不登校生徒の居場所づくり事業「オンラインの居場所<第2期>」を実施します

オンラインを活用した不登校生徒の居場所づくり事業を今年度から実施しているのですが、その第2期を実施するものです。県教育委員会では不登校の状況にある中高生や休学している高校生、中途退学した方が、他者や社会とつながるきっかけを得ることができるように、「オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり事業」に取り組んでいます。7月26日から9月末までの第1期に引き続き、この10月11日から3月17日までを第2期として取り組みます。新たにメタバースを用いた企画とか、県内外の施設や企業とのコラボレーション企画とか、同じような取組をしている広島県と連携した企画を加えて実施をいたします。期日は10月11日から令和5年3月17日までの、火曜日と木曜日で、火曜日が11時から12時まで、木曜日が13時から14時までです。希望される方はこの終了後も30分程度、ファシリテーターを務める大学生や他の参加者との対話もできます。これは企画内容によっては、別内容で実施をする場合もあります。対象者は資料2番に記載のとおりで、内容は、1点目が大学生や参加者同士の語り場として、継続ですけれども中高生の興味関心のあるテーマをあらかじめ設定して、大学生の方に進行役となってもらって、チャットや音声で対話をしたりします。第2期は参加対象者に翌月の予定表を送付して、参加しやすいようにしたいと思っています。それから、メタバースでの交流は月2回程度で初めて取り組むものですが、動画を見て話をする空間、フリートークをする空間、勉強を教えてもらう空間などを設けて進行役の大学生と参加者が、あるいは参加者同士がチャットで音声で交流したり、勉強を教えてもらったりする機会を提供いたします。コラボレーション企画として県内外の施設とか企業等と連携して、例えばオンラインでの工場見学や、博物

館ツアーの企画を月2回程度、実施したいと思っています。それから資料の4番として広島県教育委員会との連携で、広島県では令和3年度から、同様の取組をされていまして、広島県の企画に三重県の中高生が参加させてもらったり、あるいは三重県の企画に広島の中高生が参加したりということを考えております。10月は、広島県の企画の「はじめての恐竜学（前編）」に三重県の希望者も参加できることとしております。参加される方は本名もしくは各自が設定するニックネームで参加をして、管理画面上への顔出しも自由です。カメラ機能をオフにして参加したり、アバター機能を利用して参加することもできます。申込については参加希望日の3日前までに申し込んでいただいて、それで、IDとパスワードを送付させていただきます。少しだけ、メタバースの交流の画面を見ていただければと思います。

前方画面、メタバースのイメージでございます。背景が青、緑の屋外の背景に、3人の参加者が丸いアバターとして映されています。大学生スタッフ、参加者1、参加者2の3名がこの画面上にいるという状況です。今回ご用意しましたメタバースの特徴は、音声通話が基本になっていまして、例えば大学生スタッフの円が写っている範囲で声が届く、音声通話が原則のメタバースです。例えば、大学生スタッフが参加者1に近づきました。円が重なっていますので、この状況ですと大学生スタッフと参加者1で音声通話などができる。一方で、参加者2はちょっと距離がありますので、2人が話している内容は、聞こえないし参加者の声も届かないという状況です。このメタバースの特徴としては、映像ですとか、ビデオ通話もできるのですが、特徴として位置関係で音声のやりとりができますので、例えば、この状況、参加者1と大学生スタッフが話しているという状況に対して、参加者1は話が終わったら離れますので、大学生スタッフからは参加者2が一人で見えますから、話し掛けるということが出来ます。逆に参加者2と大学生スタッフが話しこんでいる。大学生スタッフの話が終わったとなれば、参加者2が離れますので、参加者1は「ちょっといいですか」と大学生スタッフに話しかけに行くことができる。このように、人との通話状況が目視できるので発話が生まれやすいという特徴をもったメタバースです。

発表項目に関する質疑

○ 「家読（うちどく）のすすめ」のリーフレットを配布し取組を展開しますについて

（質）これは全国的にやっている運動なのでしたかね。それとも三重県が独自に。

（答 社会教育・文化財保護課）全国的にとは。

（質）今やるっていうのは、三重県は今年から力を入れていこうという感じなのでしょうか。

（答 社会教育・文化財保護課）はい。昨年度から配布は始めたのですがけれども、年明けの時期だったので、この時期に各学校へお送りして、ちょうどこの10月頃から就学時健診を各学校でされますから、その時に配布できるように、少し前倒してこの時期に配布し、ちょうど読書週間が始まりますので、それもセットみたいな感じでやらさせていただきます。

（質）例えば、データの的に三重の子どもって全国的に読書時間が何番目とか、そういうもの

ってあったりするのですか。

(答) 何番目というのは無いですが、例えば、全国学力・学習状況調査で、小学校は6年生、中学校は3年生なのですけれども、児童生徒への質問紙調査というのがありまして、そこで授業時間以外に1日あたり10分以上子どもたちが読書しますか、というのを聞いていまして、その令和4年度でいきますと、小学校が三重県が56.8%、1日あたり10分以上読書をする。全国は59.6%、それから中学校が同じく44.1%で全国が48.6%ということで、毎年少しずつ数値は違うのですけれども、全国平均に比べると、三重県の調査の結果は少しずつ低いという状況でございます。

(質) ちょっと頑張っていこうということですね。

(答) そうです。小さな時から、あるいは保護者の方と絵本から含めて、本に親しむ習慣であるとか、あるいは身近な家族の人と、活字の世界、本の世界を想像しながら楽しむということで、読み聞かせから始まって、小学校1, 2年生であると自分で興味を持って1人で読んだり、あるいはその本を家族と共有して互いに読んで、自分で体験できないことも本で経験するというような機会を、是非増やしていきたいと思っております。

○ オンラインを活用した不登校生徒の居場所づくり事業「オンラインの居場所<第2期>」を実施しますについて

(質) 前期というか1回目って、結局何人ぐらい利用があったのかとか、データがありますでしょうか。

(答) そうですね。まず登録人数は17人ということで、夏季休業中もあって、開設したのですけれども、なかなか参加されなかったという時間も正直ございました。一方で、通常のそういったオンライン空間でやる以外に、県立博物館の方にご協力いただいてM i e M uの企画展示を学芸員の方に案内してもらったり、あるいはクイズも出してもらったりするという交流をしたときには、15人が参加をしてくれました。それから、ここには三重大学の学生の方も運営に関わってもらっていて、その方が自分の三重大学の研究室を紹介するというのをオンラインでもらったときは11人が参加をしていただいたところです。実績としてはそういう形です。

(質) さっきの県立博物館というのはオンラインで、全てオンラインということですか。

(答) 全てオンラインです。

(質) 対面の希望があれば、対面で集まる機会も設けることを検討しますみたいなのがあった気がするのですが、結局そういう機会はあったのですかね。

(答 生徒指導課) 対面の機会はまだ作っていません。

(質) 皆さんオンラインでしばらくはいいということで行われたということですね。

(答 生徒指導課) はい。

(質) 今後もメタバースとかそういった新しいオンラインの工夫もしながら、対面希望もあれば対面で集まることも考えようかみたいなことですかね。

(答) 1回やってみて、ネット空間に入ってきて、顔を出す、出さないは自由なのですけれども、ファシリテーターの大学生の人がおるのですけれども、なかなか参加しにくいとか、参加してもらっても退出までの時間が短かったり、在室時間が短かったりということがございました。ですので、メタバースは先ほど見てもらいましたけれども、もう少し参加してその場でもいてくれやすいし、それから、目に見えて大学生の人とか、場合によっては勉強のこととか、入ってきた方同士で話し合えることもわかりやすいということでそういう工夫をさせていただいたり、それから、さっき申し上げた博物館とか三重大学の協力を得て実施した部分については、かなり参加者がみえたので、今後、企業の方とか、スポーツの関係のこととか、そういう中高生の方が身近に興味を持ってもらっているようなことについて、オンラインの機会を設けてさせていただきたいと思っております。あと広報もしながら必要な方に情報を届けていきたいと思っております。

(質) 教育長がおっしゃったことと重なりますけれども、メタバースを活用するということで、ねらいを改めて伺いたいのですが、今までとは違ってこんなことができるのか、これをする事でこんな効果を見込んでいるということを改めて教えていただけますか。

(答) 今までの平面的なオンラインの空間ということになると、やっぱり入っていきにくいとか、参加してもらってもチャットにしる、音声にしる、会話がしにくい感じがあると聞いております。メタバースはアバターという形ですけれども、目に見えて、ここで交流を何人かがしているとか、あるいは勉強についてこういう聞く場所があるとか、あるいは動画みたいな形で、YouTubeをテーマに沿って見る場所もあるということで、初めて入ってきた方も、目に見える形で参加しやすい環境ということを思いまして、今回初めてですけれども、させていただこうと思っています。県教育委員会では、児童生徒対応ではないのですけれども、名張青峰高校というところがあって、そこは教職員向けに、夏に研修や交流という場を名張青峰高校が中心になって設けたら、やっぱり通常のオンライン会議や研修よりも、参加しやすかった、交流しやすかったということも聞いていますので、そういうことも参考にしながらさせていただこうと思っています。

(質) 重ねて伺いますけれども、三重県教委ならではのメタバース空間の魅力や、居場所をほしい不登校生徒の方が三重県教委のメタバースに参加したらこういうのが楽しいよとか、そういうアピールポイントはありますか。

(答) このオンライン空間は7月からさせてもらっているのですけれども、まず、大学生の方に、運営やファシリテートの部分でお願いしています。我々は中高生の方を念頭に置いているのですけれども、そうした世代の児童生徒の方に近い大学生の方が、あるいはそういう機器にも詳しい方が、交流のコーディネーターをするということになりますので、安心して参加していただけますし、自分の興味・関心に近いような、あるいは少し上のお兄さん、お姉さんという形で訪ねたりすることもできると思いますので、ぜひ

一度、まずはここに参加してほしいと思っています。また、いろんな希望があったら、希望を聞きながら柔軟に、運営は3月までございますので、より深めたりいろんなところに広めたりはしていきたいと思います。

(質) メタバースのことなのですが、こういうメタバースを使った交流の場という活動は、全国的には取り組んでいるものなのですか。

(答) 全部は把握できてないのですが、都道府県単位で取り組んでいるというのはあまり聞いたことがないです。NPO法人ですが、カタリバというところがあるので、そこが企画をしながら、例えば中学生にそういう機会を設けたりということもあります。あと広島県もいろいろやっているのですが、メタバースという形ではまだしていないです。

(質) メタバースを使うにあたって、県教委としてアカウントを取ったりとか、新たに必要だったのはなんですか。

(答 教育総務課) 事業者に登録はして、アカウントは学校でも使っているグーグルアカウントで入るのですが、県として手続きをサービス事業者にやって、使っているという状況です。

(質) 障壁が高いわけではなくて、わりと使いやすい状況であるということですか。

(答) そうですね、私もさっきのメタバースを少しさせてもらいましたが、障壁は全然高くなく、気軽に参加してもらえそうです。

(質) さっきのメタバースなのですが、前回までの参加者とかの希望でメタバースも欲しいということがあってなんですか。

(答) 希望はそこまで具体的にお聞きしていませんが、我々もどうしたら参加者が参加しやすいかを考える中で、いろんな手立てを検討して、これもやってみようかということなんです。

(質) あと、プログラムというのか、私、全くこの分野は不勉強であれなのですが、県教委で開発されたのですか。そういうソフトみたいなものがあるということなのですか。

(答) これは自由に空間とか工夫ができるようなものなのですが、基本形はメタバースの部分で使うということです。

(質) そういう業者さんが作っているものがあるということなのですね。

(答 教育総務課) クラウド上で提供している感じです。手続きをした人とか契約者がカスタマイズしていく。

(質) なるほど、元があってそれを少し変えるということですか。

(答 教育総務課) はい、アレンジはユーザー側でできるという仕掛けです。

(答) です、例えば大学生と話そうとか、そのような部分はいくらでも工夫ができると思います。

その他の項目に関する質疑

○ 令和5年度三重県公立学校教員採用選考試験第2次選考試験の結果について

(質) 今日の教育委員会のメニューを確認してくるのをすっかり忘れていたんですけど、今日は請願とかその手のものは特になかったですか。

(答) 今日は、職員の人事異動と、それから教員採用選考試験の第二次選考試験の2点ということです。

(質) 採用選考試験では特にいつもと変わった合格率であったりとか、その手のものがすごく上がっている、下がっているとか何か異変はなかったですか。

(答) 教員採用試験については全国的にもそうなのですが、三重県も、全国の厳しいところよりはまだ多いのですが、受験者が減少しているという状況がございます。特に小学校で減少しているところがございます。ですので、そういったことについて、来年度に向けてしっかりと手立てを打つべきであるという教育委員さんからの意見であったりとか、それから、議会でも質問がありましたけれど、コロナに感染した方の再受験について検討していくということを報告もさせていただきました。

(質) これはまだ数日前なんで、これから検討ということで具体的にあれから変わったところは特にないですか。

(答) そうです。来年度に向けてということで、来年度の教員採用試験の概要を公表するのが例年2月になりますので、それまでにはきちんと結論を出して、その時点でまた皆さんにもお知らせさせていただきたいと思っています。

(質) 今の関連なのですが、県議会で答弁していたと思うのですが、イメージとして、やはり二次試験の方をどうするかということですか。

(答) そうですね。1次試験は例年7月20日前後にさせていただきます。内容としては、学科試験というか筆記試験です。それから、1次試験の合格発表が、2次もありますので、8月10日くらいまでに行っているという日程です。日程的な関係と、問題については現場の教員それから事務局職員が、問題の構成とか作成、それからチェック、もう1回確認ということを重ねて、30数教科の問題が必要になります。期間的にも8カ月くらいかかっているということがございますので、そこも、そのやり方以外のやり方というのは、なかなか今のところ難しいということもあるのですが、他府県もどうされるかというのを見ていきながらなのではございますけれども、そこを前提にすると、1次試験の再試験は難しいとは思いますが。一方で、二次試験については面接試験と教科によっては実技試験と、論述試験ということで、実技試験の問題は当然いるのですが、二次試験と論述試験ということなので、これについても教職員が作成し、数カ月かかるのですが、ただ日程的には今の期間では難しいかもわかりません。そこも考えながら検討しているところなのですが、いずれにしても全国的にも同じ状況にあるので、もう少し工夫しているところもあるかもしれませんので、他府県の状況も見ながら検討したうえで、2月までには内容を決めさせていただきたいと思っています。

以上、13時57分終了